

命を守ることで全国は繋がっている

元東京都知事候補小池晃さん（医師）が、医療支援などのため4月16日、坂病院を訪れました。この日は小野絹子・中川邦彦塩釜市議、藤原益栄多賀城市議、歌川渡七ヶ浜町議、天下みゆき県連事務局長などの案内で、被災地を訪れました。また、17日は避難所で医療支援を行い、午後には被害の大きかった石巻にも行きました。

3日間の支援を通して小池さんは、東松島の“なるせの郷”を訪れたときは言葉を失った。これから感染症や呼吸器疾患が心配となる。様々な困難を乗り越えることで、宮城の事業所が発展することを期待したい。命を守ることで全国の民医連のみなさんは繋がっている。これからもみなさんとともに頑張りたいと話していました。



多賀城市内の被災地を訪問する小池晃氏

被災状況を視察

【多賀城市】

被害の大きかった宮内地区を訪問、この付近で40名亡くなっている。震災で勤め先を解雇されることが起きている。家屋の被害も甚大で、住宅の再建も大きな課題。
(藤原市議)

【七ヶ浜町】

町の基幹産業の漁業、のり養殖などが壊滅的被害を受けた。ある漁師さんは4千万円位の借金で船を購入しても、原発の風評被害で、獲れた魚が売れるのか心配ということでした。
(歌川町議)

【塩釜市】

港湾内に沈んだ船の撤去作業を行っているがまだかなりの船が沈んでいる。再建のためにも航路の確保が重要。個人住宅の撤去費用は国でもつが、中小業者の撤去費用がかなりの負担になると考えられる。
(小野市議)

絆を大切に



被災状況撮影のため深沼海岸から南下して行きました。柴田町付近は桜が満開。阿武隈川川岸で数本咲いていた桜の下で、おばあちゃんとお孫さんがお弁当を食べながらお花見。
震災の影響でいくつかの行事が中止になっていますが、この家族の様子をみて、静かに、“絆”を確かめるために、行事を行うことも大切だと思いました。
(神馬 悟)

困った時はお互いさまですから

17日、震災後初めて理髪店に行きました。いろいろ災害の話をして、会計の時いつも3千5百円なのですが、一律2千円とのこと。会話で何度かでてきた言葉が「困ったときはお互いさまですから」。塩釜市民の心意気を感じました。

全国支援 4月17日現在 累計1,634人



多賀城市宮内地区（津波は→の所まで）



数千万円の海苔の機械が破壊された（4月17日七ヶ浜町）



今だに漁船の撤去は行われていない（4月17日塩釜市）